

愛知製鋼グループ社員が、水源の森育成ボランティアを実施

愛知製鋼株式会社(代表取締役社長:後藤尚英)は、6月2日(日)、長野県王滝村で水源の森を育成するボランティア活動を実施し、総勢48名が参加しました。

長野県王滝村などを水源とする愛知用水が、知多半島の農業・産業・人々の暮らしのために必要不可欠な存在であることから、当社グループでは、愛知用水の水源を守る活動の一環として2006年から毎年継続してボランティア活動を実施しています。

2019年4月には、王滝村と「森林(もり)の里親制度」を締結し、約28haの森林を「愛知製鋼グループの森」として整備活動に取り組んでいます。

今回は、当社・グループ会社の社員・家族43名に加え、大学生の実行委員で構成される「命をつなぐ PROJECT」メンバーから5名、そして地域行政の職員7名が参加し、森林植樹のプロの指導のもと、「愛知製鋼グループの森」で除伐などの森林整備作業を行いました。

今後も当社は、事業におけるカーボンニュートラル実現への取組みに加えて、地域環境を保護するボランティア活動の継続による、持続可能な地球環境への貢献を通じて、「いつまでもこの地にあり続けてほしい」と思っていただけ企業を目指していきます。



森林の間伐作業の様子



ボランティア参加者の集合写真